

川内山塊 中山尾根～銀太郎山

「中山尾根を登りに行く」と聞いて、関東の岳人で八ヶ岳以外の中山尾根を思い浮かべる人はどれだけいるだろうか？また新潟の岳人で、わざわざこの尾根から銀太郎山に登ることに情熱を燃やす山屋が東京にいるなんてことを、想像できる人はどれだけいるだろうか？これまでに1回の偵察山行と更に八匹ノ頭までの試登山行を重ね、今回は完登したいなど思いながら、通い慣れた村松へ向けて愛車を走らせる。

4月2日（土）：晴れ

村松のいつもの仮眠地で朝を迎えるが、物凄く風が強い。今回、風が強くて良いことなど何も思い浮かばないが仕方ない。心配していた道路の残雪もチャレンジランド杉川のオープンが近いいためか、水無平方面登山口の駐車スペースの近くまで無く、先ずは順調な滑り出した。

邪魔にならないと思われる場所に駐車して歩き始める。間もなく仮設の橋に差し掛かるが、まだ冬支度のままなのか踏み板が外されている。佐貫はここで中止しようというが、この先にはもっと怪しい箇所が有るのがわかっており、少なくともその状況は確認しておきたいので山行を続けることにし、パイプを伝い気をつけて渡る。

一般登山道を離れて踏み跡ルートに入るが、雪は殆ど無い上々のコンディションだ。しかし所々露岩している急斜面に、爪で引っかいたようなルートをプラ靴で歩くことに神経を使うことはわかっていたので、佐貫の提案通り用意してきたチェーンアイゼンを使用して慎重に歩を進める。

いよいよ吊橋の残骸が残る大底川の出合に差し掛かるが、何度か訪れているので迷うことなく沢に下りる。残雪が少ないとはいえ雪代は出ており、20～30cmほど水位は増している。これ位なら想定内なので、躊躇することなく渡渉の準備を整える。水はかなり冷たかったが渡るポイントは分かっている上、準備してきた溪流足袋のお陰もあって何とか対岸に辿り着くことができた。装備を高い所に避難させ、溪流足袋を佐貫に投げる。佐貫も着衣を濡らすことなく渡り終えた。

ここからのルートも八匹ノ頭まではトレース済なので、迷うことなく進む。秋の試登山行の際は藪漕ぎを覚悟していたのにも関わらず、かなりの部分で踏み跡を使用できたので順調に進むことができた。しかし今回は大荷物の上、プラ靴を履いている。とにかくザックが木に引っ掛かり、その都度足止めを食らう。焦ることもないのでいつも通りに取り組んでいると、だんだん慣れてくる。

13時半を過ぎたあたりで慎重派のリーダーは時間切れの心配をし出す。楽観派の私は、今日明日

【日程】

2016年4月2日（土）～
3日（日）

【メンバー】

佐貫（L）、棚橋

【地形図】

高石、室谷

【記】 棚橋



大底川の渡渉

共天気心配も無いし、あと1時間位頑張れば八匹ノ頭まで行けるだろうから更に1時間でCo922mの幕場予定地に着くのではないかと、進むこと以外思い浮かばない。もう少し余計に時間が掛るかもしれないが、銀太郎山からの下山時間も読める。それとは逆に引き返したとしてもザックの引っ掛かりに苦しめられながら出合まで戻った上に、渡渉および悪場の通過も待ち構えているとあっては、とても今日中に車まで戻れる気がしない。結局予定通り進むことになったが読みが甘く、1時間では八匹ノ頭には着かなかった。しかしだんだん雪が拾えるようになり、俄然行動が楽になる。そして15時過ぎにようやく八匹ノ頭に着いた。大分時間が掛かった様に感じていたが、日帰り装備の前回と30分程度しか変わらなかった。

幕場予定地は見えているが手前にも良さそうな所がありそうだ。是が非でも予定地を目指す必要は無さそうだが明日の行程も長いので、もう少し進んでおく。結局16時前にCo840mの広い鞍部でザックを下ろす。気持ちの良い幕場が得られた。

4月3日(日)：晴れ

五時半前に出発。雪の無い箇所はあるが、藪に苦しめられることもなく快調に進む。Co955mの小ピークにて方向を変えると、次なる小ピーク(ココノスジ)までもう一登り。銀太郎山も間近に迫ってきた。

9時前、ようやく主稜線に出る。銀太郎山まで30分といったところであるが、まだ下山が長い上、猫が留守番している東京までも遠いので少し休憩した後リーダーの判断通り、銀次郎山に向けて下りことにする。ここから急な下りであるが雪も大分緩んできているので、そのまま気をつけて下りてみることにする。しかし部分的に氷化したままの箇所があり、すぐにアイゼンを着ける。あまり甘く考えないで助かった。

銀次郎山の山頂では、訪れた際には有ったと思う標柱が見当たらない。埋まってしまうとは思えないが、少し先の岩の上で休憩していると登山者が2人登ってきた。彼らも同じ所で休憩したので、しばし親睦を深める。東京から来たと言うと、「浦和浪漫の方ですか?」と聞かれてしまった。またお二方は新潟の岳人とのことで、我々がこれまでに登ってきたこの辺りのレアな山名も知っておられた。奈羅無登山ならまだしも、坪ノ毛まで。まだ進まれるようなので、ここでお別れする。

今日も良い天気なので水分補給が欠かせないが、次なる目標である七郎平山の先で水が汲めると幸せである。いつもの水場を佐貫が見に行ってくれたが、汲むのは無理な状況だったとのこと、残念!また道があるから心配していなかったが残雪が使えたため、その先の下りもスピーディーに下りることができた。

木六山に着くと登山者が1名、下山の準備をしている。折角なので少し立ち止まって話をする。その方は村松の岳人だそうで悪場峠から仏峠、更にそこからは尾根通しに来たそうである。皆、様々な思惑があるようである。東京から来たと言うと、この方には「ぶなの会の方ですか?」と聞かれてしまった。なかなかトマの名前は出てこない。

我々は予定通り水無平を経由して釜ノ罫に向かうが、水無平は一面雪で覆われていた。カタクリ



ココノスジを背に

の花が咲く沢沿いの道を進み、予定より大分早く駐車地点に着いた。それでも 16 時近く、やはり長い。

今年のひどい寡雪の状況にも関わらず、中山尾根第 1 回目の本ちゃん山行で無事トレースできて本当に良かった。他人の記録に頼らない山行を志向している以上、偵察山行や中退はある程度避けられないが、それが遠方となるとチャレンジできるチャンスも限られてくる。今回は想像していたよりも雪が多かった(例年の 6,7 割位だろうか)のに助けられた感があるが、それよりも大きかったのは八匹ノ頭より更に先まで続いていた踏み跡と鉤目の存在であったと思う。鉤山道探しなどやりたいことはいろいろあるが、次に訪れるのはアカシガラ沢のリベンジだろうか。

【行程】

4/2 釜ノ罫(8:09)～大底川出合(11:26/38)～八匹ノ頭(15:07/17)～Co840mC1(15:48)

4/3 C1(5:26)～銀太郎山手前(8:57/9:10)～銀次郎山(10:15/35)～七郎平山(11:16)～木六山(13:06/20)～水無平(14:52)～釜ノ罫(15:49)

